

特31

454

第一編

卷二

畿内

山城誌

大和誌

日本地誌

畿内之部

二

飯島
十著

特31
454

日本地誌卷二

○目錄

山城誌

大和誌

日本地誌
卷二
目錄

新嘉坡圖書館

類屬
地理
日本
三冊
十二函

第一冊

山城之圖



丹波

近江

摂津

河内

伊賀

大和

度四西

度四西

三十五度

三十五度

明治十二年九月十二日交付
日本地誌卷二

教育博物

山城位
置

山城誌

飯島半十郎 編輯
那珂 通高 校正

丹波上界、全國ノ地勢、三面皆山ニシテ、南一面平坦ナリ、山城上古山背、或ハ山代、或ハ開木代ニ作ル、桓武天皇都ヲ葛原ニ遷シ、詔シテ曰ク、此ノ國ハ山河襟帶シ、自然城ヲ成ス、故ニ改メテ山城トシ、都ヲ平安城ト名ツクト、

承和三年勅シテ畿内ノ次第ハ、上古ヨリ大和國ヲ首ニ置レシカ、改メテ山城國ヲ六十餘州ノ冠首トセヨト云ヘリ、後白河天皇位ニ即クニ及ヒテ、新院崇徳上重祚ノ志アリ、左大臣賴長其ノ謀ヲ贊シ、源為義等ヲ引キテ、其ノ黨トス、天皇為義ノ長子源義朝及平清盛等ヲ遣シテ、コレヲ討タシム、コレヲ保元ノ亂ト云フ、コレ我國大亂ノ階ニシテ、大權ノ武門ニ歸スル此レヨリ始マル、後源義朝藤原信賴ト兵ヲ舉ケテ、亂ヲ作シ、清盛ト戰ヒ、軍敗レテ東ニ奔リ、人ノ為ニ殺サレテ、事平ク、コレヲ平治ノ亂ト云フ、後諸國ノ源氏競ヒ興リ、平氏ヲ討ツ、平氏敗レ

テ、安徳天皇ヲ扶ミ、西海ニ遁ル、尋テ源義仲京ニアリテ、横恣ナリ、源賴朝其ノ弟範賴義經ヲシテ、コレヲ討タシム、順徳天皇ノ時、後鳥羽上皇兵ヲ徵シテ、北條義時ヲ伐チ、克タスシテ、天皇上皇ト共ニ、各海島ニ徙サル、後醍醐天皇ノ時ニ到リ、北條氏滅ヒテ、足利氏又興リ、天皇吉野ニ幸ス、後龜山天皇ニ至ルマテ、凡ソ三世五十六年ノ間、楠新田諸族足利氏ト京都ヲ争ヒ、彼レ入レハ、此レ出テ、此レ入レバ、彼レ出ツルコト數ナリ、後醍醐天皇ノ芳野ニ幸スルニ及ヒテ、足利氏乃皇胤ヲ選ミテ、コレヲ立テ、愈朝憲ヲ茂視ス、義輝ノ時ニ到リ、三好氏權ヲ專ニシ、其

ノ臣松永久秀、遂ニ義輝ヲ弑ス、義昭ニ及ヒテ足利氏ニ
ヒ織田氏トナリ、織田氏亡ヒテ、豊臣氏興ル、豊臣氏亡ヒ
テ、徳川氏興リ、天下ヲ統治スルコト、二百數十年、武門ノ
勢愈熾ニシテ、王室ハアレトモ無キカ如シ、有志ノ士慨
然トシテコレヲ憤リ、羣起シテ幕府ヲ尤ム、孝明天皇ノ
時ニ到リテ、關西ノ諸藩攘夷論ヲ主張シ、竊ニ徳川氏ヲ
倒サントス、毛利氏因リテ罪ヲ得ルヲ以テ、國老罪ヲ訴
ヘ、兵ヲ引キテ帝闕ヲ侵ス、諸藩ノ兵コレヲ討ツ、慶應三
年、徳川慶喜政權ヲ王家ニ還シ、大坂ニ退ク、既ニシテ兵
ヲ發シ、京ニ入ラントス、諸藩ノ兵討チテコレヲ退ク、鳴

呼大權ノ武門ニ歸スル五百數十年、今上皇帝ニ到リ、初
メテ大政ヲ親ラシ給ヒ、再天日ヲ仰クコトヲ得ル、豈萬
民ノ幸福ニアラスヤ、後皇居ヲ東京ニ定メテ、京都府ニ
ハ、知事ヲ置キ、全國ハ郡及丹波三郡ヲ管轄セシム、八郡
ハ、白、葛野、曰ク愛宕、曰ク乙訓、曰ク紀伊、曰ク宇治、曰ク
久世、曰ク綴喜、曰ク相樂、是レナリ、氣候ハ、冷、暖、時ニ變シ、
陰、晴、常ナラス、大抵極暑ハ、九十五度ニ至リ、極寒ハ、三十
一度ニ至ル、

○土地

葛野郡ハ、國ノ西北隅ニシテ、東ハ京都府ニ亘リ、西ハ丹

波ニ接ス、全郡八十村アリ、此ノ郡勝地多シ、嵐山ナリ、御
 室ナリ、月輪寺ナリ、皆花ヲ賞スルニ宜シ、花ニ宜キノミ
 ニアラス、嵐山ノ如キハ夏月暑ヲ避クルニ宜シク、冬日
 雪ヲ觀ルニ宜シ、月輪寺ノ如キハ、愛宕山腹ニアリテ、秋
 霽登臨ニ宜シ、嗚呼風流ノ士ヲシテ、其ノ心目ヲ慰マシ
 ムルノミニアラス、兵家ハ此ノ地ニ據リテ以テ戰フニ
 宜シ、其ノ他嵯峨野、小倉山、雙岡、清瀧、小野郷等アリ、皆幽
 邃ノ地ナリ、嵯峨野ノ如キハ、古來此ニ隱遁スル者多キ
 ハ、古人ノ詩歌ニ詳ナリ、今ハ人家稠密ニシテ、商賈貿易
 ノ地トナル、然レトモ猶一閑雅ノ佳境タリ、小倉山ニハ

黃門定家卿ノ住ミタル山莊ノ址アリ、定家ハ、和歌ヲ能
 クシ、小倉山百人一首ヲ撰ス、其ノ子為家卿モ亦歌ヲ以
 テ著ハル、又西行法師ノ草菴ノ址アリ、西行ノ歌捐ニ、我モ
 小倉山ノ里西行ハ、藤原秀郷ノ裔左兵衛尉秀清ノ
 孫、左衛門尉泰清ノ子ナリ、鳥羽帝ノ時、僧トナリ、四方ニ
 漫遊シ、和歌ヲ能クス、雙岡ニハ、兼好法師ノ住ミタル跡
 アリ、兼好ノ歌ニ、わはく世の花とならひの岡小野郷ニ
 ハ、參議萱ノ舊跡アリテ、其ノ靈ヲ祭ル、萱ハ、姓ハ小野敏
 達天皇ノ後ニシテ、參議岑守ノ長子ナリ、仁明天皇ノ時、
 遣唐使トナリ、罪ヲ得テ隱岐ニ流サレ、後參議ニ任セラ

ル博ク古今ノ書ヲ讀ミ、殊ニ書ヲ能クスルヲ以テ名アリ、此ノ郡寺院ノ大ナルハ、仁和寺トス、御室ニアリ、天龍寺トス、下嵯峨ニアリ、妙心寺トス、池上村ニアリ、神護寺トス、高雄山ニアリ、庶苑寺トス、大北山村ニアリ、庶苑寺トス、高雄山ニアリ、庶苑寺トス、大北山村ニアリ、庶苑寺トス、應永年間足利義満ノ建ツル所ニシテ、三層ノ高閣アリ、塗ルニ金ヲ以テス、因リテ一金閣寺ト云フ、庭園ノ閑雅ナル、堂宇ノ奢麗ナル、以テ足利氏ノ盛時ヲ想像スルニ足ル、其ノ傍ノ衣笠山ハ、仁治年間藤原家良ノ別業タリ、亦一勝地ナリ、神護寺ハ、延暦年間和氣清麻呂ノ創建ニシテ、初、神願寺ト云フ、僧空海今ノ號ニ改ム、妙心寺

ハ、延元二年花園上皇ノ創建ニシテ、僧慧玄ノ開基ナリ、天龍寺ハ、歷應二年足利尊氏光嚴上皇ノ勅ヲ奉シ、創建セシ所ニシテ、夢想國師ノ開基ナリ、其ノ西龜山ニ離宮ノ址アリ、後嵯峨院及龜山院ノ二天皇此ニ住ミ給ヒシト云フ、仁和寺ハ、仁和四年ノ創建ナリ、宇多天皇讓位ノ後、宮殿ヲ此ニ造リ、密教ヲ修ス、是レヨリシテ世々ノ法親王此ニ住ミ給ヒ、仁和寺宮ト稱ス、其ノ他太秦ニ廣隆寺アリ、榎尾ニ西明寺アリ、槇尾ニ高山寺アリ、北嵯峨ニ大覺寺アリ、門前ニ龍安寺、等持院アリ、上嵯峨ニ庶王院、臨川寺アリ、東寺ハ、西八條ノ南ニアリテ、僧空海ノ開基

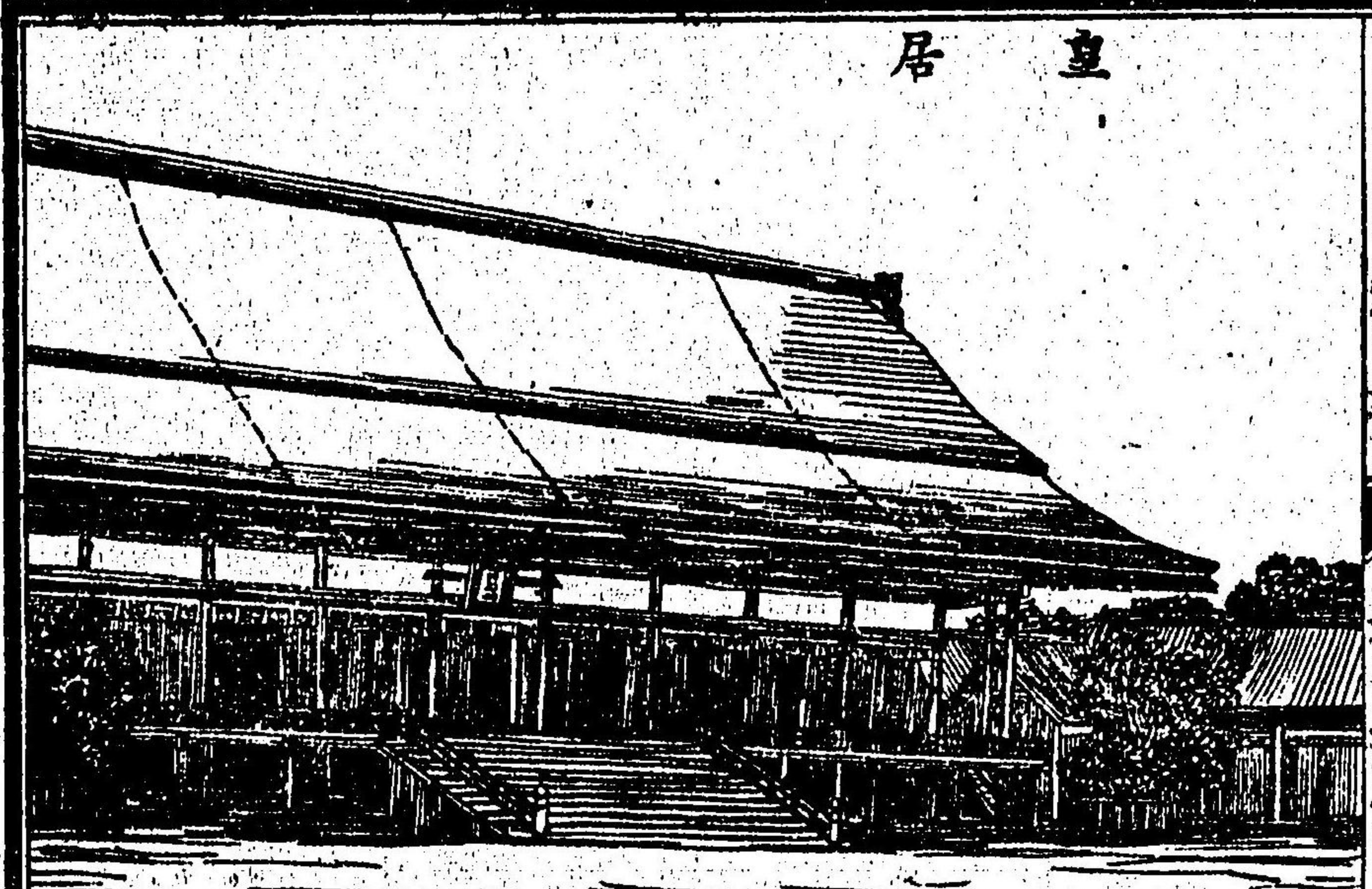
ナリ、堂宇壯大ニシテ、五層ノ高塔アリ、此ノ地ハ舊大内裏ノ鴻臚館ノアリシ所ナリト云フ、又其ノ西南四塚ニ羅城門ノ址アリ、權現堂ハ朱雀ノ六軒町ニアリテ、其ノ傍ニ源為義ノ墓アリ、保元二年源義朝後白河天皇ノ勅ヲ奉シ、鎌田正清ヲシテ、其ノ父為義ヲ弑セシム、義朝ノ倫理ヲ紊ルハ、後人ノ唾棄スル所ナリ、壬生寺ハ島原ノ北、壬生村ニアリ、正暦二年ノ創建ニシテ、僧快賢ノ開基ナリ、毎年三月大念佛會ト唱ヘ、猿樂ヲナス、世コレヲ壬生狂言ト云フ、狂言二十四番アリテ、頗古雅ナリ、島原ニ歧樓アリ、此ノ地舊足利氏ノ遊園タリ、天正十七年或人

此ニ妓樓ヲ建テ、新屋舖ト稱シ、又柳町ト稱ス、慶長七年六條ニ移リ、三筋町ト稱ス、寛永十八年再今ノ地ニ移ル、此ノ時肥前島原ノ亂ニ際ス、因リテ世々コレヲ島原ト呼フ、蓋邪教能ク人ヲ惑シ、娼妓亦能ク人ヲ惑スノ意ナレン、後遂ニ名トナル、神社モ亦多シ、松尾神社ハ官幣大社ニシテ、上山田村ニアリ、祭神二座、大山咋命、中津島姫命ナリ、大山咋命ハ、大己貴命ノ子ナリ、中津姫ハ、素盞鳴尊ノ女ナリ、例祭ハ、毎年四月二日ナリ、平野神社モ、亦官幣大社ニシテ、小北山村ニアリ、祭神四座、曰ク今木神、曰ク久度神、曰ク古開神、曰ク比咩神、此ノ四神ハ、源平高楮

大江、四姓ノ祖神ナリ、例祭ハ、松尾ニ同シ、梅宮神社ハ、西
梅津村ニアリテ、官幣中社ノ一タリ、祭神ハ、酒解神、大若
子神、小若子神、酒解子神ノ四座ナリ、例祭ハ、毎年四月三
日ナリ、護王神社ハ、高雄山ニアリテ、祭神ハ、和氣清麻呂
ナリ、清麻呂ハ、備前ノ人ニシテ、稱徳天皇ノ時、近衛將監
兼美濃大掾ニ任セラル、後直言ヲ以テ罪セラレ、西海ニ
流サル、然レトモ、其ノ王家ニ功アル、少カラサルヲ以テ、
王政維新ノ後、別格ノ官幣社トシ、コレヲ祭ル、○愛宕郡
ハ、此ノ國第一ノ大郡ニシテ、南ハ京都府ヲ包ミ、北ハ丹
波、近江ニ斗入シ、殆全國三分ノ一二ニ居ル、其ノ地勢南方

平垣ニシテ、北方山岳多ク、耕種ノ地少シ、全郡僅ニ六十
一村アリ、皇居ハ、上京一條ニアリ、宮殿宏麗ニシテ、且清
潔ナリ、其ノ中紫震、清凉ノ二殿、最美ニシテ、皆南ニ面ス、
四方ニ九門アリ、門内ヲ築地内ト稱ス、世々ノ天皇皆此
ニ居リ、今上皇帝ニ至リテ、武藏ノ江戸ニ遷リ給フ、二條
城ハ、上京二條ニアリ、永錄十二年、織田信長ノ建ツル所
ニシテ、初足利義昭ヲ置キ、後諸司代ヲ置ク、信長ノ弑ニ
遇フ、信忠此ニ入り奮戦シテ死ス、豊臣氏ノ時、又諸司代
ヲ置キ、徳川氏ノ時、モ亦諸司代ヲ置ク、王政革新ノ後、府
廳トナス、三條橋ハ、府下咽喉ノ地ニアリ、天正年間、豊臣

居 皇



氏命シテ其ノ柱ヲ石ニス今
猶存セリ、欄于擬寶珠ノ銘ニ、
洛陽三條之橋、至後代化度往
還人、磐石之礎入地五尋、切石
之柱六十三本、蓋於日本石柱
濫觴乎、天正十八年庚寅正月
日豐臣初之、御代奉增田右衛
門尉長盛造之トアリ、橋下ノ
清流ハ、即鴨川ナリ、鴨川ノ西
ハ、街衢縱橫、繁華雜沓ナリ、街

中寺院多シ、本能寺ハ、寺町通ニアリ、此ノ寺、舊油小路ノ
東ニアリテ、天正十年、織田信長ノ居館トナル、時ニ明智
光秀叛シ、急ニコレヲ圍ム、信長防ク能ハスシテ自殺ス
ハ、其ノ記ニ、亂ヲ得其ノ亡骸ニ示エサリシト云ヒ、信長譜ニ
ノ、頃友人某、鞍馬口阿彌陀寺ノ古記録ヲ閱シ、其ノ實ヲ
得テ、其ノ記録ニ、當寺ノ僧清玉、嘗信長ニ愛セラシ、因リテ
變ヲ聞キ、直ニ馳テ本寺ニ至ル、信長既ニ自殺ス、清
玉即其ノ骸ヲ烟トシ、骨ヲ袖ニシ、歸リテ、當寺ニ葬ルト
云、ハ、新善光寺御影堂ハ、五條通ニアリ、坊中扇ヲ製ス、コ
レヲ御影堂扇ト云フ、古昔平敦盛ノ室、蓮華院此ニ閑居
シ、初メテ阿古女扇ヲ製セシト云フ、空也堂ハ、堀川ノ東、
敵町ニアリ、空也上人ノ開基ナリ、上人ハ、醍醐天皇ノ第

二子ニシテ念佛宗ノ祖タリ、其ノ徒有髮ニシテ法衣ヲ着シ、瓢ヲ敲キ和讃ヲ諷フ、其ノ他東西本願寺、本國寺、佛光寺、誓願寺、天性寺、妙滿寺、六角堂等アリ、皆巨刹ナリ、北野神社ハ、北野ニアリ、官幣中社ニシテ、祭神ヲ贈太政大臣正一位菅原道真公トス、其ノ傳記ハ普ク人ノ知ル所ナリ、例祭ハ、毎年八月四日ナリ、白峰神社モ亦官幣中社ノ一ニシテ、飛鳥井町ニアリ、祭神ヲ崇徳上皇トス、保元元年上皇亂ヲ作シ、軍敗レテ遂ニ讃岐ニ遷サレ、長寛二年崩ス、明治元年此ニ遷シテ以テ祭ル、例祭ハ、毎年九月二十一日ナリ、聚樂城ノ舊址ハ、府廳ノ西北ニアリ、天正

十三年豊臣秀吉ノ築ク所ニシテ、其ノ經營極ノテ宏壯ナリシト云フ、其ノ北、西陣ヨリ絹布ヲ産スル夥シ、コレヲ西陣織ト云フ、舟岡山ノ城址ハ、紫竹門村ノ大徳寺ノ傍ニアリ、永正年間斯波、細川等ノ築キシ所ニシテ、將軍義澄此ニ據リシカ、義植ト戦ヒ敗レテ江州ニ入ル鴨川ノ東モ亦喧嘩雜沓ナリト雖、地勢東ニ山ヲ帶フルヲ以テ、幽邃ノ境亦少シトセス、郡ノ南端、今熊野村ニ、泉涌寺アリ、僧空海ノ開基ニシテ、舊法輪寺ト稱ス、凡國內ノ帝陵六十有九アリ、後堀河天皇ヨリ以來皆此ニ葬ル、皇祖仁孝天皇ノ陵ヲ弘化陵ト稱ス、天皇諱ハ、惠仁、在位二十

九年、弘化三年丙午二月六日崩ス、壽四十七、皇考孝明天
皇ノ陵ヲ後月輪東山陵ト號ス、天皇諱ハ、統仁、在位二十
一年、慶應三年丁卯十二月二十五日崩ス、壽三十七、其ノ
北ニ、大佛殿方廣寺アリ、豐臣秀吉ノ建立ニシテ、廬舎那
佛ノ座像ヲ安ス、其ノ長六丈三尺、慶長元年地震ヲ、秀吉
徳川氏ト共ニ入朝シ、寺前ヲ過キ、佛像ノ倒裂ヤルヲ見
テ罵リテ曰ク、我汝ノ為メニ勞費ヲ憚ラス、汝ヲシテ衆
生ヲ濟度セシメントス、今己ノ身且ツ保ツコト能ハス、
何ソ我ニ負クヤト、因リテ弓ヲ呼ビコレヲ射シト、初銅
像ナリシカ、寛永二年改造シテ木像トス、寺前ニ耳塚アリ

リ、朝鮮ノ役敵ヲ殺シ耳ヲ截リ輸シテ此ニ埋メシト云
フ、總ヘテ此ノ邊ノ地ハ、古ノ六波羅ノ館址ニシテ、今ノ
大佛殿ヲ中央トシ、北ハ五條、南ハ七條ニ亘リシト云フ、
平正盛、忠盛等皆此ニ居リ、清盛ニ至リテ、益境地ヲ廣大
ニシ、樓閣ヲ美麗ニス、平氏滅ビテ北條泰時、時房等此ニ
居リ、政ヲ行フ、正慶二年千種忠顯、赤松良忠等コレヲ圍
ム、北條仲時、時益等後伏見上皇及新帝ヲ奉シテ逃ル、三
十三間堂ハ、大佛殿ノ南ニアリ、後白河天皇平忠盛ニ勅
シ建ツル所ナリ、古此ノ堂前ニ於キテ年々射術ヲ調ス、
一日能ク一萬有余矢ヲ放ツモノアリシト、阿彌陀峰ハ、

其ノ東ニシテ、豊國神社アリ、豊臣秀吉ヲ祭ル、秀吉ハ尾張國愛知郡中邑ノ村民、彌助ノ子ナリ、匹夫ヨリ興リ、大權ヲ掌握シ、官関白ニ至ル、其ノ雄才大略ハ、能ク人ノ知ル所ナレバ、略ス、慶長三年七月十三日薨ス、年六十三、同十四年四月、豊國大明神ノ號ヲ賜ヒ、王政維新ノ後、別格ノ官幣社トス、是レ其ノ王家ニ功アルヲ以テナリ、其ノ東、清閑寺ニ、高倉天皇ノ陵アリ、天皇諱ハ、憲仁、後白河天皇ノ第五子ナリ、在位十二年ニシテ、位ヲ太子言仁ニ讓リ、治承五年四月十四日崩ス、壽二十一、八坂神社ハ、官幣中社ノ一ニシテ、八坂郷ニアリ、祭神ヲ素盞鳴尊、稻田比

賣命、八柱御子神ノ三座トス、例祭ハ、毎年六月十五日ナリ、其ノ西、祇園町ハ、花柳ノ郷ナリ、此ノ頃、官命シテ、女工場ヲ設ケ、娼妓ヲシテ、各其ノ工業ニ就カシメントス、王政人ヲ愛スルノ意、此ニ至ル亦厚イカナ、八坂郷ハ、南ハ清水ニ至リ、北ハ真葛原ニ至ル、其ノ間、祇園、長樂寺、下河原、法觀寺、靈山、山ノ井、清水、三年ノ八坂アリ、故ニ名トス、此ノ地、陶器ヲ製スルノ家多シ、六兵衛道ハ、名最著ハル、法觀寺ニ五層ノ高塔アリ、其ノ製極メテ精巧ナリ、世コレヲ八坂塔ト云フ、其ノ傍ナル高臺寺、雙林寺、長樂寺、東大谷、西大谷ハ、皆著名ノ地ニシテ、或ハ登臨ニ宜シク、

或ハ花ヲ賞スルニ宜シ、音羽山清水寺ハ、坂上田村麻呂ノ創建ナリト云フ、寺ニ觀音ヲ安ス、建保年間僧徒清開寺ト隙ヲ生シ、城壘ヲ設ケ、將ニ戰ハントス、事聞エテ皆毀タル、圓山安養寺ハ、眺望絶佳ノ境ニシテ、僧房數宇アリ、皆酒樓ノ如シ、府下ノ遊人常ニ來ル、其ノ傍ノ知恩院ハ、僧源空ノ開基ニシテ、亦一ノ巨刹ナリ、南禪寺ハ舊龜山上皇ノ離宮ナリシカ、僧善門ニ賜ヒ、此ノ寺ヲ創建ス、其ノ傍ナル永觀堂、若王子光明寺、極樂寺、真如堂、黒谷ノ如キハ、皆清絶ノ境ニシテ、其ノ名著ハル、岡崎村ハ、黒谷ノ西ニアリキ、人口一千三百六十有余アリ、四隣ノ貿易

場タリ、其ノ西ニ條新地ハ、鴨川ニ臨ミ、妓樓アリ、慈照寺ハ、舊足利義政ノ別業ニシテ、當時東山殿ト號ス、二層ノ高閣アリ、塗ルニ銀ヲ以テス、蓋殿苑寺ノ金閣ニ對シテ造レルナラン、因リテ一ニ銀閣寺ト稱ス、檐外ニハ老松アリ、恠石アリ、奇花異草アリ、山ヲ起シ水ヲ引キ、其ノ經營ノ工妙ナル、實ニ園丁ノ明鑑タリ、其ノ傍ニ月待山アリ、文字山アリ、中尾山アリ、中尾山ニ城址アリ、天文十八年足利義晴ノ築キシ所ニシテ、城險ニ據ル、永錄四年佐木氏ノ臣、永原安藝守此ニ主タリ、後三好氏ニ攻メラレ、城陷ツ、吉田神社ハ、吉田村ニアリ、祭神ヲ健御賀豆智

命、伊波比主命、天子八根命、比賣神ノ四座トス、官幣中社
ノ一タリ、例祭ハ、毎年四月十八日ナリ、此ノ地一ニ神樂
岡ト云ヒ、城址アリ、建武三年宇津宮紀清兩黨ノ築キシ
所ナリシカ、叡山ノ僧徒ト戦ヒ、城陷ツ、又白河天皇ノ陵
アリ、天皇諱ハ、貞仁、後三條帝ノ子ナリ、在位十四年位ヲ
太子善仁ニ譲リ、太上天皇ト稱シ、後薙髮シテ白河法皇
ト稱ス、政ヲ聞クコト凡五十年、大治四年崩ス、壽七十七
又牧場アリ、吉田聖護院二村ニ亘ル、現今西洋種ノ牛ヲ
放ツコト凡五十余頭、綿羊ヲ放ツコト凡三十余頭ナリ
ト、北白川ニ城址アリ、古昔足利義輝此ニ據リシカ、細川

晴元ニ攻メラレ、城ヲ焼キ近江ニ走ル、其ノ傍一條寺村
ハ、昔時石川丈山ノト居セシ所ニシテ、詩仙堂今尚存セ
リ、丈山ハ、三河ノ人ニシテ、嘉右衛門ト稱シ、六々山人ト
號ス、徳川氏ニ事ヘ、大坂ノ役ニ軍令ヲ犯シ、竊ニ營ヲ出
テ、戦フ、因リテ黜ケラル、後此ノ地ニ接シ、翰墨ヲ以テ
自娛ム、其ノ西上加茂村ニ、加茂別雷神社アリ、官幣大社
ニシテ、祭神ハ、別雷神ナリ、風土記ニ、別雷神ハ、健角身命
ノ女、玉依姫ノ子ナリト、健角身命ハ、皇產靈ノ或ハ傳ス、
孫天神魂命ノ子ナリ瓊々杵尊ナリト、加茂御祖神社ハ、下加茂村ニアリ、祭神
ニ座、玉依姫命加茂健角神命ナリ、雍州府志ニ、上加茂ノ

社ハ山城國ノ一ノ宮ナリ、白鳳年間大己貴命、下加茂ニ
現ハレ、其ノ後瓊々杵尊、上加茂ノ別雷山ニ現ハル、故ニ
兩社ヲ上下ノ加茂社ト稱ス、桓武帝遷都以前ニ在リト
云ヘリ、上下兩社共ニ、其ノ境内清潔ニシテ、宮殿美麗ナ
リ、上加茂村ハ、高賈四集ノ地ニシテ、居民三千二百六十
六ロアリ、下加茂村モ亦一市場ニシテ、一千三百九十三
ロアリ、其ノ北ニアル貴船神社ハ、官幣中社ニシテ祭神
ヲ高靈神トス、例祭ハ、毎年六月一日ナリ、郡ノ東北ハ瀨
大原ノ二村ノ風俗ハ、男女頭髮ノ様皆同シク、衣服ノ制
モ亦同シ、蓋古ノ風ナリ、婦人ハ薪ヲ賣ルヲ業トス、ハ瀨

ニ、竈風呂アリ、善ク痼疾ヲ療スベシ、草生村ハ、其ノ西ニ
シテ、寂光院アリ、文治年間建禮門院ノ閑居セシ所ナリ、
ト云フ、郡ノ北ハ、山峰重疊シテ、溪間一縷ノ路久多庄ヲ
過キテ、丹波ニ入ルヘシ、○乙訓郡ハ、國ノ西南隅ニアリ
テ、丹波、攝津ニ接ス、全郡五十村アリ、桓武天皇初メテ都
ヲ此ノ郡ノ長岡ニ遷ス、續日本紀ニ、長岡舊都ノ方境ハ、
大原野春日社ノ東南ヨリ、東ハ、向日社ヲ限り、西ハ、丘山
ヲ際リ、南ハ、山崎ノ邊ニ到ルト云フ、大原野ニ大原神社
アリ、舊春社官幣中社ニシテ、祭神ヲ健御雷神、齋主命、
天兒屋根命、比賣神ノ四座トス、桓武天皇遷都ノ時、大和

ヨリ此ノ神ヲ遷セシト云フ、例祭ハ毎年二月八日ナリ、
其ノ傍ナル勝持寺ハ、一ニ花寺ト云フ、元和年間天哉翁
長嘯子此ニ閑居シ、細川幽齋等ト共ニ和歌ヲ以テ著ハ
ル、山崎ハ郡ノ東南ニアリテ、一市場タリ、天正年間豊臣
氏光秀ヲ討チシ古戰場ナリ、城址アリ、大永年間藥師寺
備後守、此ニ據ル、天正年間山崎源太左衛門主タリシカ、
豊臣氏光秀ヲ誅シテ此ニ據リ、後大坂城ヲ築ク、勝龍寺
村ハ、山崎ノ北ニアリテ城址アリ、此ノ城舊松永氏ニ屬
セシカ、後岩成主税助ノ有トナル、永錄十一年織田氏コ
レヲ攻メ、城陷ツ、後細川藤孝ヲシテ主タラシメ、又矢部

善七郎猪子兵仗等ヲシテ守ラシメシト云フ、其ノ傍ノ
日向町ハ、農商貿易ノ一市場タリ、此ノ郡ノ大寺ハ、光
明寺ナリ、僧源空ノ開基ニシテ、熊谷蓮生嘗此ニ草菴ヲ
結ヒ、源空ヲ師トセリト云フ、境地山ニ據リ、登臨ノ勝ア
リ、又善勝寺ナリ、僧源算ノ開基ニシテ、小塩村ノ山上ニ
アリ、其ノ麓上羽里ハ、在原業平ノ母ノ住ミタル所ト云
フ、伊勢物語又三鈷寺ハ、其ノ北ニアリテ、眺望絶佳ノ境
ト稱ス、土人云フ、二大佛七城ヲ一目ニスト、其ノ西北ニ
金藏寺アリ、僧隆豊ノ開基ナリ、其ノ他藏王堂、福田寺、乙
訓寺、長法寺、法皇寺等アリ、○紀伊郡ハ、國ノ中央ニシテ

宇治乙訓二郡ノ間ニアリ、全郡二十四村アリ、淀城ハ、淀川ニ臨ム、足利氏ノ末年、岩成左通此ニ據リ、織田信長ニ抗ス、幾ナラスシテ、城陷ツ、後豊太閤ノ室、此ニ在リテ、淀殿ト號ス、當時城内ノ庭園極メテ善美ヲ盡セリト云フ、今城ヲ毀チテ田畝トス、徳川氏ノ時、松平定綱主タリ、後永井、石川、松平氏等代リテ享保年間ニ至リ、稻葉氏ノ封タリ、稻葉氏ノ先、越智正成ハ、関原ノ役ニ、筑前中納言ニ從ヒ、功アリ、大坂ノ役、亦功アリ、因リテ、二萬石ニ封セラレ、後封ヲ増シ十萬二千石ニ至ル、城下市街ハ、甚繁華ナラスト、雖、亦清潔ナリ、人口五千九百三十三アリ、方今京

都府支廳ヲ此ニ置ク、伏見ハ一ニ俯見ニ作り、又伏水ニ作ル、北朝崇光帝ノ孫世々此ノ地ニ居リ、伏見宮ト云フ、永録年間津田某、松永氏ニ屬シ、城ヲ築キテ居ル、後豊臣氏再城ヲ修ス、是レヨリ市街繁盛、商賈輻輳ノ地トナル、慶長五年石田三成ノ亂ニ、城ハ皆毀タレテ、徳川氏ノ臣鳥居元忠、松平家忠コレニ死ス、其ノ址ニ桃花數千株アリ、コレヲ挑山ト云フ、花候ニ至レハ、四方ノ遊人踵ヲ接シテ到ル、徳川氏ノ時此ノ地ニ奉行ヲ置キテ、統轄セシム、王政維新ノ際、徳川慶喜兵ヲ率テ再京ニ入ラントス、京兵コレヲ拒キ、先、此ノ地ニ戦フ、東軍敗走ス、追フテ

淀ニ至リ、八幡ニ至ル、三戰皆勝ツ、此ノ時市街大半焦土トナリシカ、現今殷富舊ノ如ク、市街二百六十六街、人口二萬一千三百三十八アリ、伏見ノ東北ニ深草アリ、古來歌ニ詠セシ名勝ノ地ニシテ、鶉ノ聲世ニ鳴ル、又土器、團扇ヲ産ス、深草山ニ仁明天皇ノ陵アリ、因リテ一天皇ヲ深草帝ト稱ス、飲淨寺ニ深草少將ノ宅址アリ、寺記ニ四位少將ハ深草大納言義平卿ノ長子ニシテ少將義宜卿ト稱ス、弘仁三年三月卒スト云ヘリ、深草元政ノ墓ハ、瑞光寺ニアリ、寺ハ即元政ノ創立ニシテ、古ノ極樂寺ノ地ナリ、元政ハ博ク和漢ノ學ニ通シ、最和歌ヲ能クス、

深草ノ東、稻荷山ニ、稻荷神社アリ、官幣大社ニシテ、祭神三座、曰ク倉稻魂神、曰ク猿田彦神、曰ク大宮女命、或ハ伊弉册尊、瓊々杵尊ト共ニ五座トス、例祭ハ、毎年四月九日ナリ、其ノ北ナル東福寺ハ、僧辨圓ノ開基ニシテ、建長九年九條道家ノ創建ナリ、境内ニ通天橋アリテ、橋下ニ西湖ノ楓アリ、其ノ他多ク楓樹ヲ植ウ、故ニ秋日來賞ノ客夥シ、伏見ノ西ニ鳥羽アリ、農商聚集ノ地ニシテ、人口二千四百零八人アリ、地ニ甜瓜ヲ産ス、味最美ナリ、古昔白河法皇離宮ヲ此ノ地ニ建テ、居ル、コレヲ城南離宮ト云フ、鳥羽法皇モ、亦此ニ居ル、後宮廢ス、又東九條村及竹

田村ハ、入口各一千五百六十余アリテ、一市場タリ、六地藏ハ、大津別路ノ一驛ニシテ、人口一千零十八人アリ、○宇治郡ハ、國ノ東南ニアリテ、宇治川ヲ隔テ、久世郡ニ對ス、全郡三十九村アリ、此ノ郡ヨリ茶ヲ産ス、極メテ佳品ニシテ利ヲ得ル最多シ、古昔梅尾ノ明惠上人初メテ茶ヲ此ニ植エシト云フ、市場ハ、醍醐村ヲ盛ナリトス、人口一千四百四十五アリ、其ノ傍ニ醍醐山アリ、松杉蒨鬱トシテ、白雲常ニ封ス、巨刹ハ、醍醐寺ナリ、萬福寺ナリ、毘沙門堂ナリ、醍醐寺ハ、醍醐山上ニアリ、僧聖賢ノ開基ニシテ、貞觀十六年勅シテ建テタル所ナリ、醍醐天皇ノ陵ハ、

此ニアリテ延喜陵ト稱ス、天皇諱ハ、敦仁、宇多天皇ノ太子ナリ、帝時平ノ謬ヲ信シ菅原道真ヲ筑紫ニ貶ス、在位三十三年、位ヲ太子ニ讓リテ崩ス、壽四十六、萬福寺ハ、郡ノ南大和田村ニアリ、明僧隆琦字元ハノ開基ニシテ、寛文年間徳川家綱ノ創建ナリ、其ノ東南ニアル喜撰嶽ニ、喜撰洞アリ、僧喜撰ノ住ミタル所ト云フ、喜撰ハ、橘諸兄ノ孫、奈良麿ノ子ニシテ、初醍醐法師ト云ヘリ、在古々鉢橋宇治山ニ隱居シ、松葉ヲ食ヒ、仙術ヲ得タリト、撰詩和歌ヲ能クシ、我菴ハ、歌ハ、定家卿ノ撰ニ入りテ、人口ニ膾炙セリ、毘沙門堂ハ、郡ノ北、安朱村ニアリ、大寶三年勅シ

テ京都ニ建テ、後廢ス、寛文年間僧公海ヲ開基トシ、徳川家綱再今ノ地ニ建ツ、其ノ西ニ、天智天皇ノ陵アリ、天皇諱ハ葛城、初中大兄皇子ト稱シ、亦開別皇子ト稱ス、舒明天皇ハ子ナリ、在位十年ニシテ崩ス、壽五十八、陵ハ舊御陵野ノ草叢中ニアリシヲ、後今ノ地ニ遷ス、郡ノ西山科郷ニ、僧蓮如ノ墓及田村麻呂ノ墓アリ、淺野氏ノ臣大石良雄ノ潜居セシ地ハ、西ノ山村ニシテ、今大石屋舖ト稱ス、元録十三年、良雄等四十七人、吉良氏ヲ討チテ、君ノ讎ヲ報ス、後入此ニ碑ヲ建テ、其ノ精忠ヲ表ス、叛賊明智光秀ノ死セシ所ハ、其ノ南ノ小栗柵村ナリ、天正十一年、光

秀山崎ニ敗レテ、近江ノ坂本ニ赴カントス、此ノ地ノ土民竹槍ヲ以テコレヲ刺セリト云フ、○久世郡ハ、紀伊、宇治ノ南ニシテ、全郡三十七村アリ、宇治町ハ、宇治、久世ノ二郡ニ亘リ、四方商賈ノ往來スル所ニシテ、市街三十人、口二千五百五十アリ、宇治橋ハ、孝徳天皇ノ大化二年初、メテ架セシ所ト云フ、橋下ノ水ハ、以テ茶ヲ煎ルニ宜シ、橋ノ東水ノ中央ニ巖石アリ、上ニ塔ヲ建ツ、コレヲ浮塔ト云フ、平等院ハ、其ノ南ニシテ、宇治川ニ臨ム、宇治、関白頼道ノ建ツル所ナリ、治承四年、源頼政、高倉宮ヲ奉シテ、平氏ノ兵ト此ニ戦ヒ、軍敗レテ自殺ス、尋テ源範頼、義經

木曾ノ兵ヲ此ニ伐ツ、佐々木高綱、梶原景季、宇治川ノ先
登タリ、建武年間ニ造ヒ、楠新田ノ両將、尊氏ト大ニ此ニ
戰フ、尊氏ハ、清和天皇十五世ノ孫、足利貞氏ノ二男ニシ
テ、初高氏ト云フ、後、醍醐帝ノ御諱、尊ノ字ヲ賜ハリ、尊
氏ト改ム、其ノ祖、嘗下野ノ足利郡ニアリ、因リテ以テ氏
トス、元弘ノ亂ニ、戈ヲ倒ニシテ、六波羅ヲ陷レ、北條時行
ノ兵ヲ起ス、又詔ヲ奉シテコレヲ滅シ、威名大ニ振ヒ、自
征夷大將軍ト稱シ、賴朝ノ舊制ニ倣フ、其ノ際、五畿、東海、
西海到ル處ニ、因頓シ一敗一勝、遂ニ屈セス、大權ヲ掌握
スルコト十三世、其ノ皇綱ヲ紊ルノ罪實ニ憎ムヘシ、德

川氏ノ末年、其等其ノ木像ヲ斬リテ、以テ梟シ、人皆コレ
ヲ快トス、平等院ノ西、榎島ニ城址アリ、足利義昭ノ築ク
所ニシテ、義昭信長ヲ此ニ拒キ、幾ナラスシテ敗ル、信長
其ノ將秀吉ヲシテ、義昭ヲ河内ノ若江ニ從サシメ、細川
六郎ヲシテ、主タラシム、後一柳市介ヲ封ス、○綴喜郡ハ、
久世郡ノ南ニシテ、相樂郡ニ隣ル、全郡五十五村アリ、ハ
幡ハ、此ノ郡ノ名邑ニシテ、市街一十街、人口五千零四十
人アリ、大坂ノ官道ニ當リテ、行旅ノ來往多シ、其ノ傍、男
山、鳩峰ニ、男山八幡アリ、一ニ石清水八幡ト稱ス、官幣大
社ノ一ニシテ、祭神三座曰ク品陀別命、曰ク息長帶姫命、

曰ク比賣神例祭ハ、毎年八月十五日ナリ、南北朝ノ時北
畠顯信、新田義興、此ニ據リ、足利氏ト戰ヒテ敗ル、後南帝
此ニ幸シ、北畠顯能、楠正成ヲシテ京ヲ攻メシノ、北帝ヲ
虜ニス幾ナラスシテ亦敗ル、玉水ハ大和ノ官道ニ當リ
テ、其ノ東ニ玉川アリ、一ニ井堤川ト云フ、所謂六玉川ノ
一ナリ、古昔橘諸兄、棟棠花ヲ此ノ兩岸ニ植ウ、花ノ時ニ
至レハ、恰黃金ヲ散スルカ如クナリシト云フ、古人コレ
ヲ歌ニ詠スル者多シ、郡ノ西、普賢寺溪ノ傍ナル都谷ハ、
繼體天皇ノ皇居ヲ遷シ給ヒシ地ニシテ、所謂筒城ノ都
是レナリ、郡ノ東、田原郷ハ、地勢中央平坦ニシテ、四面皆

山ナリ、古昔此ノ地ヨリ、粟粟焼粟ヲ産シ、年々朝廷ニ獻
ルヲ例トセリ、其ノ南、大道寺村ニ少納言信西ノ墓アリ、
平治元年、藤原信賴叛シ、將ニ信西ヲ殺サントス、信西遁
レテ此ニ來リ、地ヲ掘リ自埋ム、信賴人ヲシテコレヲ發
キ、首ヲ斬リテ、以テ京師ニ泉ス、○相樂郡ハ、國ノ東南隅
ニアリテ、大和、伊賀、近江ノ三國ニ接ス、全郡八十八村ア
リ、地勢山脈多ク、木津川其ノ中央ヲ貫キテ流ル、實ニ山
水明秀ノ境ナリ、川ノ南岸、南笠置ノ山上ニ、笠置寺アリ、
元弘年間、後醍醐天皇此ニ幸ス、此ノ山巖石峭立シテ、流
水其ノ下ヲ繞リ、要害頗堅固ナリシヲ、土人東軍ヲ導ケ

ルニ因リテ、陶山、小宮山等伊賀路ヨリ進ミ、夜ニ乘シテ皇居ヲ侵シタリ、今其ノ地ヲ畜生村ト云フ、木津モ亦南岸ニアリテ、大和ノ官道ニ當レリ、古ハ泉里ト稱シ、川ニ橋ヲ架ス、今ハ渡頭タリ、市坊二十九街、人口四千三百三十一人アリテ、此ノ郡第一ノ市場ナリ、其ノ傍鹿背山ノ邊ニ、聖武天皇ノ皇居、恭仁ノ都ノ舊址アリ、川ノ北岸ニ秀拔セル山峰ヲ鷲峰山トス、山上ニ金胎寺アリ、僧泰澄ノ開基ニシテ、養老六年ノ創建ナリ、境内奇石磊々トシテ、懸泉數條アリ、山頂ハ登覽絶佳ノ勝ト稱ス、其ノ東ナル大智寺モ、亦山間幽奇ノ境ニアリテ、百丈ノ大石其ノ

傍ニ立テリ、因リテ一二百丈山寺ト云フ、其ノ他文珠巖布引石、大鼓巖等ノ奇石アリ、又下有市村ハ、北笠置ノ東ニシテ、水ニ臨ム、水中炭酸泉ヲ出タス、其ノ質炭酸氣ニシテ、曹達及鹽、鉄土分少許ヲ含有ス、味酸美ニシテ能ク飲食ヲ消化ス、獨逸ノ攝爾攝爾泉、佛蘭西ノ斐西泉及白耳義ノ蘇吧泉ニ同シ、又上狛村ハ、川ヲ隔テ木津ニ對シ、亦一市場タリ、人口一千百九十八人アリ、古昔用明天皇ノ時、惠辨、惠宗ノ二僧、百濟高麗ヨリ來リテ、此ニ住ス、因リテ地ノ名トナル、狛ハ舊高麗ニ作ルト云フ、其ノ東北ノ瓶原、柞ノ森等ハ、古歌ニ見エタル名勝ノ地ナリ、

○山川

東方ニ秀出セル山峰ヲ比叡山トス、山脈近江ニ跨カリ、
 近江ニ走リテ、白川山、如意嶽、音羽山、岩間山ニ到
 リ、鷲峰、笠置ノ諸山ニ連ナル、比叡山ニ躋ル路ヲ雲母坂
 ト云フ、坂路峻岨ニシテ、行人汗ヲ揮フ、一條寺村ヨリ山
 頂ニ至ル、其ノ高一里十四町アリ、又如意嶽ハ、庶ヶ谷村
 ヨリ凡一里アリ、古昔山腹ニ土ヲ穿テ、大字形ヲ作ル、每
 年七月燈ヲ此ニ點シ、以テ府下ノ壯觀トス、因リテ一ニ
 大文字山ト云フ、又白川山ニ白川、瀑アリ、高數丈、此ノ邊
 ヨリ石ヲ産ス、土人コレヲ以テ諸器ヲ製ス、北方ニ峭立

スル山峰ヲ大悲山トス、鞍馬山、花瀬嶺、紫雲嶺、岩倉山、貴
 船山等、其ノ腰ヲ統ル、鞍馬山ヨリ薪炭ヲ産シ、又石材ヲ
 産ス、コレヲ鞍馬石ト云フ、其ノ色赤ク、其ノ質堅シ、頗朱
 石ニ似タリ、鞍馬村ヨリ九町五十間ニシテ、山巔ニ達ス
 ベシ、花瀬嶺ハ、山水清幽ノ境ニシテ、千巖秀ヲ競ヒ、萬壑
 流ヲ爭フ、凡テ此ノ邊ノ山中ヨリ材木ヲ出タスコト夥
 シ、又西方ニ聳ユル高嶺ヲ愛宕山トス、山脈南ニ馳セ、高
 雄山、大江山、木山、越、天王山ニ至リテ止マル、愛宕山上ハ、
 下嵯峨村ヨリ一里十四町アリ、坂路羊腸、頗攀躋ニ困ム、
 天王山ハ、山名是豊ノ城ヲ築キテ居リシ所ナリ、川流ノ

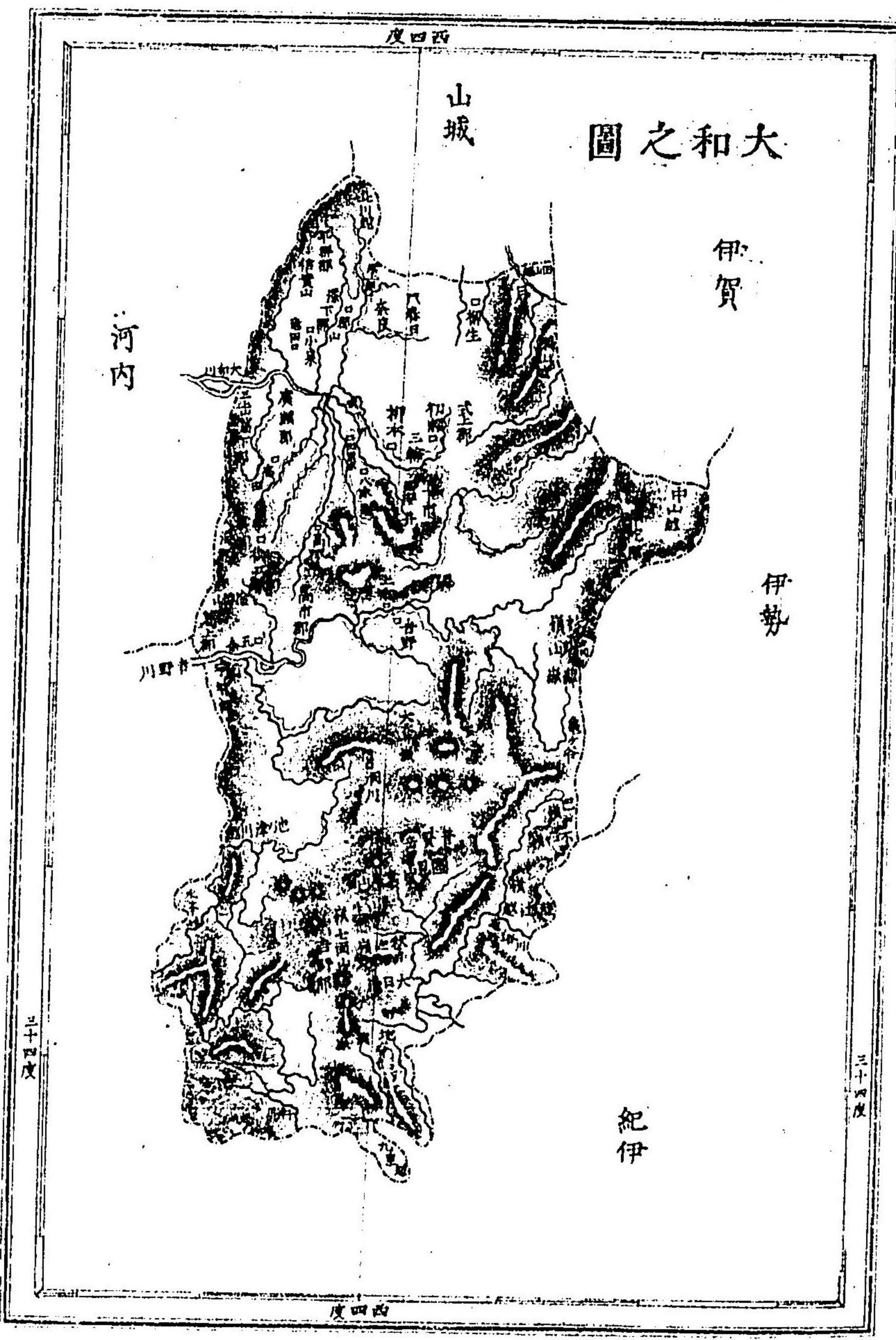
大ナル者ヲ淀川トシ、宇治川トシ、桂川トシ、鴨川トシ、木津川トス、木津川ハ、一ニ山城川ト云フ、其ノ源ヲ伊賀ヨリ發シ、名張川ト云ヒ、相樂郡ニ來リ、南北笠置ノ間ヲ流レ、西ニ向ヒ蛇行シテ淀ニ至リ、淀川ニ入ル、鴨川ハ其ノ源ニアリ、一ハ大原卿ヨリ發シ、八瀨、高野山端ヲ過キ、一ハ岩屋山ノ傍ヨリ發シ、東南ニ赴キテ、加茂ニ至リ、二流相會ス、コレヲ鴨川ト云フ、府ノ東ヲ繞リテ、桂川ト共ニ淀川ニ入ル、川ニ四大橋ヲ架ス、御幸橋ト云フ、長六十四間、四尺八寸、慶應三年新ニ架スル所ナリ、三條橋ト云フ、長五十七間、四尺五寸、四條橋ト云フ、長四十八間、五條橋

ト云フ、長六十四間アリ、桂川ハ丹波ヨリ來リ、愛宕ノ麓ヲ過キテ、高雄川ヲ併セ、嵐山ニ浴ヒテ、川ト云フ、井淀川ニ入ル、宇治川ハ、其ノ源近江ノ琵琶湖ヨリ出テ、宇治郡ニ來リ、西流シテ淀川トナル、古老ノ說ニ、宇治川ハ舊宇治郷ノ槇島、夷島ノ南ヲ過キ、御牧郷ニ至リ、淀川ニ入リシカ、豐臣氏ノ時、河道ヲ疏通シ、淀町ノ北ニ注カシムト、淀川ハ、木津、宇治、加茂、桂ノ四大川ヲ併セテ、河内攝津ノ國境ヲ界シ、海ニ入ル、其ノ流皆清潔ニシテ、纓ヲ洗フベシ、○瀑布ノ大ナルハ、明神大瀑ナリ、其ノ水ハ即伊賀ノ上野川ニシテ、相樂郡ノ北大河原ニ來リ、瀑布トナル、其

ノ高數十丈アリテ、木津川ニ入ル、愛宕郡如意嶽ノ樓門
瀑ハ、高九丈二尺ニシテ、下タリテ鴨川ニ入ル、又久多莊
ノ瀧谷瀑ハ、高六丈六尺アリ、二層トナリ墜チテ、又多川
トナル、葛野郡上嵯峨村ノ空也瀑ハ、高五大二尺アリテ、
清瀧川ニ入ル、其ノ他音無瀑、龍王瀑、音羽瀑等アリ、沼ノ
大ナルハ、巨掠池ナリ、俗ニ大池ト云フ、紀伊久世二郡ニ
跨リ、東西三十一町五十間、南北二十六町四十間アリ、コ
レニ次クハ、納所沼ナリ、紀伊郡ニアリテ、東西二十町、南
北十一町三十間アリ、其ノ他四谷村沼アリ、六地藏沼ア
リ、イモエ一口沼アリ、廣澤池アリ、皆小ナリ、

産物

産物ハ、西陣ノ織物、天鵝絨、緞子、錦襪、繡綾子、縮緬、京八丈、
京郡内ノ類、又鴨川漆、白粉、漆器、金銀箔等ニシテ、扇、團扇、
珠數、人形、茶器、陶器、硯石、燧石、砥石、ヲ出タス、又茶、栗、桃、梅、
杉、竹、松、蕈ノ類アリ、藍、水菜、甜瓜、生薑、蓴菜、慈姑、大蕪菁、壬
生菜、牛蒡、芍藥ノ類アリ、魚鱗ハ、川魚ノミニシテ、海魚ノ
價甚貴シ、大坂及若狹ヨリ輸送ス、



○大和誌

位置

大和國ハ、東南ハ、紀伊、伊勢、伊賀ニ接シ、西北ハ、山城、河内
及紀伊ニ界ス、全國東西狹クシテ、南北長シ、初神武天皇
日向ヨリ興リ、東征シテ都ヲ此ノ國ノ橿原ニ定ム、因リ
テ日本ノ總稱トナル、天智天皇ノ時、大倭ノ總稱トス、初ハ倭
ニ作ル、後ニ大倭ト云フ、聖武天皇ノ天平九年改メテ大
養德國トシ、同十九年舊ニ仍リテ又大倭トス、孝謙天皇
ノ天平勝寶年間改メテ大和トス、或ハ云フ、大倭ハ、山戸
ナリ、草昧ノ時、國人戸ヲ山ニ穿チテコレニ棲ム、故ニ名

ツクト、或ハ云フ山跡ナリ、開闢ノ初、土地濕ヒテ乾カス、山路人ノ跡アリ、因リテ名トスト、然レトモ山處ノ義ヲ以テ正トスベシ、貝原篤信ハ、神武天皇日向ヨリ東征ノ時、先難波ヨリ牧方ニ上リ、夫ヨリ伊駒山ヲ越エテ、大和ニ入ル、其ノ伊駒山ノ外ニアルヲ以テ山外ト云ヒ、淀川ノ内ニアル國ナルヲ以テ河内ト名ツク、山外ハ河内ニ對シテノ名ナルベシト云ヘリ、是レモ亦一説ナリ、此ノ國ハ、我邦第一ノ古地ニシテ、神武天皇以來世々ノ皇帝皇居ヲ國內所々ニ遷ス、神功皇后ハ、稚櫻ニ都シ、應神天皇ハ、豐明ニ都シ、履仲天皇ハ、十市ニ都シ、元恭天皇ハ、明

日香ニ都シ、安康天皇ハ、朝倉ニ都シ、宣化天皇ハ、廬野ニ都シ、欽明天皇ト齊明天皇ハ、飛鳥ニ都シ、天武天皇ハ、岡本ニ都シ、持統天皇ヨリ以後ハ、奈良ニ都ス、桓武天皇ニ至リ、初メテ山城ノ國ニ遷リ、後醍醐天皇ノ時ニ到リ、芳野ニ幸シテ行宮ヲ建ツ、是レヲ南朝トス、天皇崩シテ、後村上天皇立チ、天皇崩シテ長慶天皇立ツ、天皇位ヲ後龜山天皇ニ讓ル、天皇北朝ト和シテ、京ニ入ル、此ノ間實ニ五十六年ナリ、足利氏ノ時畠山義深守護トナリ、數傳シテ持國ニ至ル、其ノ子政長、義就、嫡ヲ争フ、此ノ時筒井越智、十市、福住ノ諸族、各地ニ分據シ、畠山氏ノ號令行ハレ

ス、筒井順昭自守護ト稱シ、威ヲ四隣ニ振フ、松永久秀コレト戦フコト屢ナリ、元龜元年二氏皆織田氏ニ降ル、後久秀叛ク、信長コレヲ討チテ、順昭ノ子順慶ヲ封ス、豊臣氏ニ到リ、其ノ弟秀長ヲ封ス、後徳川氏ニ歸ス、是レヨリ織田、永井、植村、柳澤、柳生、片桐等ノ數氏ニ割キ與フ、徳川氏ノ末年、中山忠光尊攘ノ說ヲ唱ヘ、天誅黨ト稱シテ、五條ノ代官鈴木某ヲ襲殺シ、植村氏ヲ高取城ニ攻ム、近國ノ兵來リテコレヲ撃チ、其ノ亂遂ニ平ク、王政維新ノ後、奈良縣ヲ置キシカ、後堺縣ニ併ス、全國十五郡曰ク添上、曰ク添下、曰ク平群、曰ク廣瀨、曰ク葛上、曰ク葛下、曰ク忍

海、曰ク宇智、曰ク吉野、曰ク宇陀、曰ク城上、曰ク城下、曰ク高市、曰ク十市、曰ク山邊、是レナリ、氣候ハ極暑九十六度、極寒三十五度ト云フ、

○土地

國ノ北ニアリテ、北ハ山城ニ接シ、東南西ハ添下山邊二郡ニ界スルヲ添上郡トス、全部一百四十村、其ノ繁盛ノ地ハ、奈良町ナリ、奈良ハ、一ニ南都ト稱ス、古ノ帝都ナルヲ以テナリ、當時肩摩較擊ノ地ナリシカ、遷都ノ後ハ、寂寞ノ境トナル、然レトモ市街二百三十五、四通八達、商賈輻輳シ、人口二萬一千一百五十八人アリ、王政維新ノ後、

奈良縣廳ヲ此ニ置キ、全國ヲ管セシカ、今廢ス、傳ヘテ云フ、皇居ノ地ハ、今ノ奈良町ニアラス、興福寺ノ西築地ノ内ト稱スル地、コレナリト、奈良ノ東ニ古寺アリ、興福寺ト云ヒ、東大寺ト云フ、興福寺ハ、大職冠鎌足ノ建ツル所ニシテ、後兵火ニ罹リ、又改メ造ル、古歌ニ咏セシ八重櫻ハ、此ノ境内ニアリシト云フ、寺前ニ猿澤池アリ、古采女ノ自投セシ所ナリ、東大寺ハ、聖武天皇ノ建ツル所ニシテ、大佛殿アリ、中ニ盧舍那佛ノ座像ヲ安置ス、其ノ長五丈三尺五寸、治承年間僧徒源賴政ヲ援ク、平重衡攻メテコレヲ燒ク、後源賴朝詔ヲ奉シテ、再建セシカ、永祿年間

亦松永氏ノ兵火ニ罹ル、今ノ伽羅ハ、後ニ建テタル所ナリ、境内ニ勅符庫アリ、和漢ノ珍寶ヲ藏スル極メテ夥シ、其中ニ蘭奢侍ノ香アリ、此ノ寶庫常ニ勅命封タルヲ以テ、命アルニアラサレハ開クコト能ハス、二三年前勅命アリテ、此ノ珍寶ヲ東京ニ運シ、淺草文庫ニ藏メシム、東大寺ノ南ニ春日神社アリ、官幣大社ノ一ニシテ、祭神ハ、健御賀豆智命、伊波比主神、夫兒屋根命、比賣神ノ四座トス、例祭ハ、毎年二月一日ナリ、社邊遊戯群ヲ成シ、善ク人ニ馴ル、土人コレヲ神庭ト唱ヘ、尊敬シテ驅逐スル者ナシ、カノ前藏ノ白象ヲ尊拜スルニ同シ、九テ此ノ邊、古人

ノ和歌ニ散見セル名勝ノ地多シ、其ノ南ニ柳生アリ、舊
柳生氏ノ封ニシテ陣營アリ、柳生氏ノ先ハ菅原道真ニ
出ツ、世々此ノ國ニ居リ、宗矩ノ時ニ至リ、織田氏ニ事ヘ、
後徳川氏ニ事フ、寛永年間此ノ地ニ封セラレ、一萬石ヲ
領ス、其ノ東、月ヶ瀬ハ清賞雅致ノ一境ニシテ、溪間十餘
里、岸上皆梅樹ナリ、カノ寒葩冷蘂雪ヲ點シ、珠ヲ綴ルノ
時ニアタリテハ、遠近來觀ノ客、桃香野ヲ經テ四十八瀧
ヲ上リ、此ニ來ル、標本ハ郡ノ南境ニアリテ、市坊六入口
一千九百七十一人アリ、亦一ノ名邑ナリ、此ノ郡帝陵多
シ、開化天皇ノ陵ハ、漢國社ノ西、念佛寺ノ境内ニアリ、春

日卒川坂下陵ト云フ、天皇ハ、孝元天皇ノ子ナリ、在位六
十年ニシテ崩ス、壽百十一、元明天皇ノ陵ハ、法華寺村ノ
北ニアリ、佐保山東陵ト云フ、天皇日本根子天津御代豐
國成姫ト號ス、天智天皇ノ女ナリ、在位七年、元正天皇ノ
陵ハ、其ノ傍ニアリ、佐保山、西陵ト云フ、一ニ辨天山ト字
ス、天皇日本根子高瑞淨足姫ト號ス、草壁皇子ノ女ナリ、
在位七年、聖武天皇ノ陵ハ、奈良ノ眉間寺ノ後ニアリ、佐
保山、南陵ト云フ、土人コレヲ御陵森ト稱ス、天皇天璽國
押開豊櫻彦ト號ス、文武天皇ノ子ナリ、在位二十年、此ノ
陵舊松永久秀ノ城中ニアリ、城湮滅スト雖、陵ハ依然ト

シテ存セリ、光仁天皇ノ陵ハ、東田原村ニアリ、田原陵ト云フ、塚、本ト字ス、天皇白壁王ト稱ス、天智天皇ノ孫ナリ、在位十二年、平城天皇ノ陵ハ、常福寺村ニアリ、揚梅陵ト云フ、禰智山ト字ス、天皇日本根子天排國高彦ト號ス、桓武天皇ノ子ナリ、在位四年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓ル、○南、城、下郡ニ界シ、北、山城ニ接シ、漆上郡ヲ東ニシ、平群郡ヲ西ニスルヲ漆下郡トス、全部七十四村、此ノ郡ノ名邑ヲ郡山トス、市街六十五、人口一萬四千九百八十八人、商賈貿易ノ一繁昌地タリ、城堡アリ、古昔小田切春次ノ築ク所ニシテ、文錄慶長ノ際、豊臣秀長及秀俊等、城主タリ、

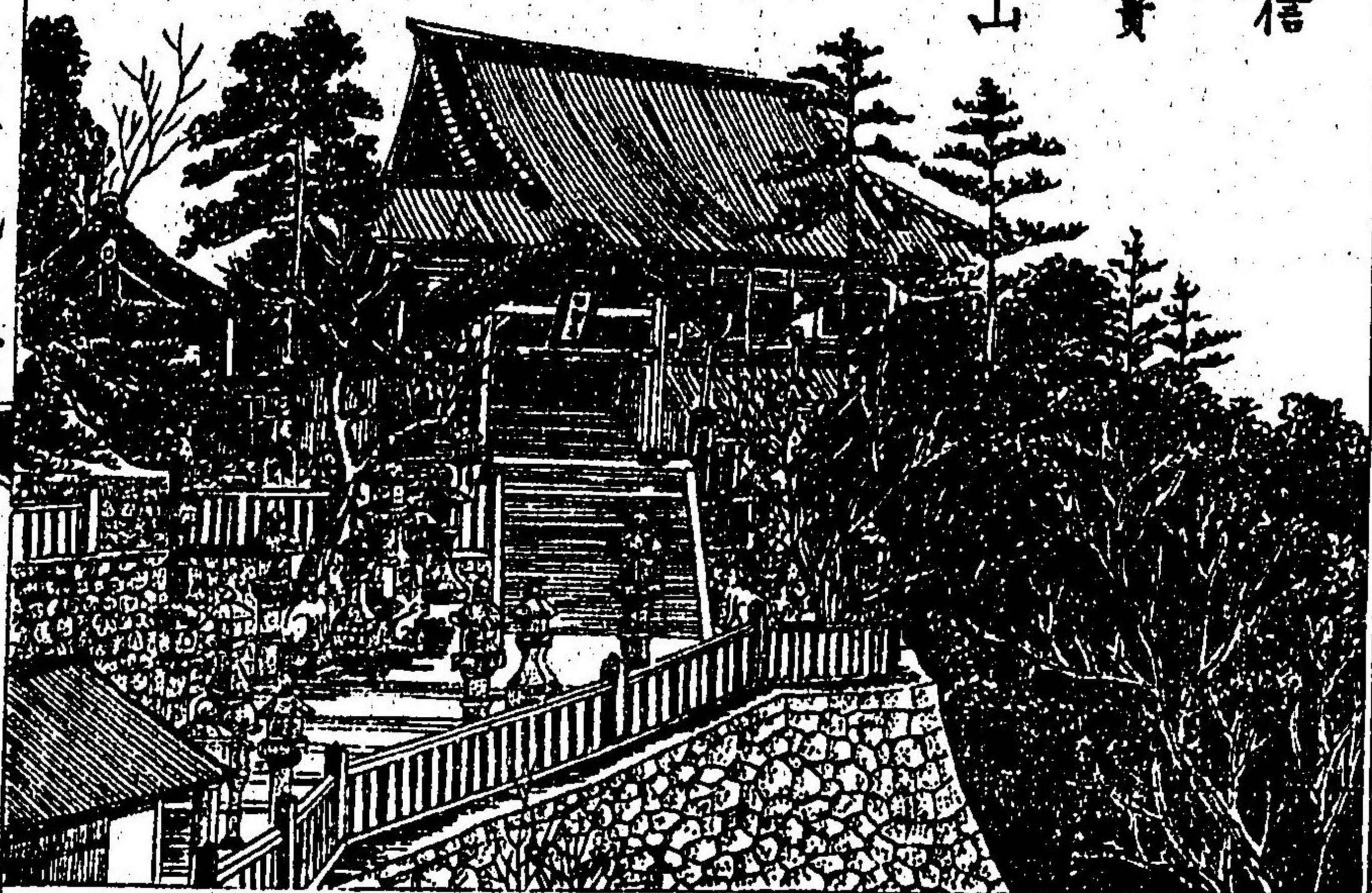
シカ、徳川氏ニ到リ、本多氏ヲ封シ、又松平氏ヲ封ス、即柳澤氏松平氏ノ先、彌太郎保明ハ、武田氏ノ裔ト稱ス、徳川綱吉ニ事ヘ、大ニ寵アリ、初百六十石ヲ領セシカ、後甲斐國ヲ賜ヒ、十五萬千二百石余ヲ領スルニ至ル、綱吉ノ薨スル、封ヲ此ノ地ニ移サル、又名邑ヲ小泉トス、舊片桐氏ノ封タリ、片桐氏ノ先、貞隆ハ、真貞ノ二男、市正貞盛ノ弟ナリ、初貞盛ト共ニ豊臣氏ニ事ヘシカ、大坂役ノ後、徳川氏ニ事ヘ、此ノ地ヲ賜ヒ、一萬千石餘ヲ領ス、市坊七、人口二千零九十四人アリテ、貨物聚集ノ地タリ、郡ノ南、筒井村ニ、城址アリ、筒井順慶嘗コレカ主タリシカ、松永久秀ノ有

トナリ、後又順慶ニ歸ス、順慶ハ、茶及和歌ヲ能クス此ノ
郡ノ名勝ノ地ハ、秋篠里、外山里、伏見岡等ニシテ、巨剎ハ、
西大寺、唐招提寺、松尾寺、藥師寺、金剛山寺等アリ、又帝陵
ハ神功皇后ノ陵ハ、郡山ノ傍、陵村ニアリ、狹城厓列池上
陵ト云フ、土人御陵山ト稱ス、陵上ノ松柏鬱々トシテ、晚
翠ヲ含ム、皇后氣長足姫尊ト號ス、在位六十九年ニシテ
崩ス、壽一百歳、垂仁天皇ノ陵ハ、齋宮寺村ニアリ、菅原伏
見東陵ト云フ、蓬萊山ト字ス、成務天皇ノ陵ハ、山陵村ニ
アリテ、狹城厓列池後陵ト云フ、石塚ト字ス、天皇諱ハ、稚
足彥景行天皇ノ子ナリ、在位六十年ニシテ崩ス、大和巡

覽記ニ、本多氏郡山ヲ領セシ時、里人石棺ヲ掘リ、大刀、短
刀、鏡等ヲ得タリ、即コレヲ本多氏ニ訴フ、本多氏其ノ帝
陵ナルヲ知り、故ノ如ク土ヲ封セシムト云フ、安康天皇
ノ陵ハ、寶來寺ノ西城山ノ内ニアリ、菅原伏見西陵ト云
フ、保天堂ト字ス、天皇諱ハ、穴穗、在位三年ニシテ、大草香
ノ子、眉輪王ニ弒セラレ、○國ノ西北隅ニアリテ、添下、廣
瀬、葛下三郡ニ隣レルヲ平群郡トス、全郡八十三村、國ノ
西、信貴山ノ下ニ、城址アリ、古昔古川幸藏ナル者、初メテ
築キシト云フ、天正年間松永久秀、此ニ據ル、初メテ
田信長ニ降ル、信長許サスシテ曰ク、彼智勇餘リアリト

雖奸倭比ナシ、飢レハ伏シ飽ケハ起ツ、彼既ニ足利氏ヲ
亂タス、今亦我カ家ヲ亂サンコトヲ欲スルカト、時ニ佐
久間信盛傍ニアリテ曰ク、彼暗主ニ事フ、故ニ此ノ如キ
ノミ、主公コレヲ駕馭スル、彼モ亦何ヲカ為サン、宜ク撫
納シテ、廣キヲ天下ニ示スヘシト、信長コレニ從フ、後德
川家康信長ニ謁ス、一老人ノ座ニ侍スルヲ見ル、因リテ
誰ソト問フ、信長笑ヒテ曰ク、是レ松永彈正ナリ、此ノ夫
ハ、人ノ能シ難キ所ヲ為スコト、ニアリ、公方ヲ弑スル一
ナリ、三好氏ニ叛クニナリ、大佛殿ヲ燔ク三ナリト、彈正
トハ、久秀ノ通稱ナリ、久秀俯伏流汗シテ、意安カラス、久

信貴山



秀愛スル所ノ茶鐺アリ、平蜘蛛名ツク、信長之レヲ得ンコトヲ欲ノ、久秀獻セス、是ニ於テ遂ニ叛キテ、此ノ城ニ據ル、信長ノ侍史友閑使シテ其ノ意ヲ問フ、久秀答ヘス、因リテ信長ノ子、信忠數萬騎ニ將トシテ、コレヲ攻ム、久秀潛ニ使ヲ遣ハシテ、雜賀大坂ト期ヲ約シ、コレヲ夾撃セントス、其

ノ使誤リテ信盛ノ營ニ入ル、信盛捕ヘテコレヲ獻ス、信
忠喜ヒテ曰ク、コレ天授ナリ、乃死士二百ヲシテ雜賀ノ
援兵ト偽リ、夜城門ニ到ラシム、門開キテ入ル、信忠急ニ
城ヲ圍ミ、遂ニコレヲ拔ク、久秀天主閣ニ上リ、火ヲ縱チ
テ燬スル所ノ茶鐺ヲ抱キテ、自焼死ス、其ノ子久通以下
皆誅ニ伏スト云フ、山上ニ寺アリ、朝護國孫子寺ト云フ、
僧明蓮ノ開基ナリト云ヒ、又厩戸皇子ノ創建ナリト云
フ、信貴山ノ東ニ龍田神社アリ、官幣大社ノ一ニシテ、祭
神ヲ天御柱神、國御柱神ノ二座トス、崇神天皇ノ時、建ツ
ル所ナリ、例祭ハ、毎年四月四日、此ノ地ハ郡中第一ノ繁

華ノ市場ニシテ、商賈輻輳ス、市街七街、人口一千六百四
十五人アリ、其ノ東、法隆寺村ニ、法隆寺アリ、舊班鳩寺ト
云フ、推古天皇ノ十五年、厩戸皇子ノ創建ナリ、寺ニ古器
古書畫ヲ藏スルコト夥シ、此ノ頃コレヲ東京ニ運スノ
議アリト云フ、此ノ地モ亦一繁華場ニシテ、人口一千八
百六十四アリ、○葛下郡ノ東、十市郡ノ西ニアルヲ廣瀨
郡トス、全郡三十四村、郡小ニシテ、舊蹟少シ、河合村ニ、廣
瀨神社アリ、官幣大社ノ一ニシテ、祭神ヲ若宇迦賣命ト
ス、例祭ハ、毎年四月四日ナリ、倉田村ニ、百濟宮ノ舊址ア
リ、又百濟寺、長林寺ノ如キハ、厩戸皇子ノ創建ニシテ、大

寺ナリシカ、今ハ僅ニ其ノ址ヲ存スルノミ、○南ハ、忍海郡ニ隣リ、北ハ、初瀬川ヲ限リ、西ハ河内ニ接スルヲ葛下郡トス、全郡八十六村、郡ノ南ニ新庄ノ陣屋アリ、徳川氏ノ時、永井氏此ニ封セラレテ、一萬石ヲ領ス、其ノ家系ハ、攝津高槻ノ永井氏ト一ナリ、其ノ東高田ハ、農高貿易ノ一場ニシテ、市坊二十街、人口三千一百四十二人アリ、郡ノ西ニ、當麻寺アリ、推古天皇ノ時、建テタル所ナリ、垂仁天皇ノ七年、當麻邑ニ力士蹶速ナルモノアリ、自稱シテ天下ニ比無シト云フ、帝コレヲ聞キ、野見宿禰ヲシテコレト角セシム、蹶速遂ニ撲タレテ死ス、是レ我國角觝ノ

濫觴ナリ、郡ノ北ニ、達磨寺アリ、推古天皇ノ二十一年、厩戸皇子夜ヲ脱キ、飢人ニ與フ、飢人死ス、皇子コレヲ憐ミ、命シテ此ノ地ニ葬ラシム、コレヲ達磨墳ト云フ、後僧勝月塔ヲ其ノ上ニ建テ、達磨寺ト號ス、其ノ傍玉寺村ニ、孝靈天皇ノ陵アリ、片丘坂陵ト云フ、峰垣戸ト字ス、天皇大日本根子彦太瓊ト號ス、孝安天皇ノ太子ナリ、母ヲ姉押姫ト云フ、都ヲ城下郡ノ黒田ニ遷ス、在位七十六年ニシテ崩ス、壽一百二十八、又池田村ニ、顯宗天皇ノ陵アリ、片山岡磐築丘山陵ト云フ、二兒山ト字ス、帝諱ハ弘計、履中天皇ノ孫ニシテ、市邊押羽皇子ノ子ナリ、初市邊押羽皇

子、雄畧天皇ニ殺サル、弘計兄億計ト、逃レテ播磨ニアリ、清寧天子無キニヨリテ、官ニ入レ皇子トス、清寧天皇崩シテ兄弟相讓リ位ニ即カス、因リテ飯豊青皇女ヲ立テ、天子トス、未幾ナラスシテ殂ス、コレヲ飯豊天皇トス、億計ハ、即仁賢天皇ナリ、天皇固ク位ヲ辭ス、是ニ於テ弘計位ニ即キ、明日香ハ鈞宮ニアリ、天皇夙ニ艱難ヲ嘗メ、能ク民情ヲ知ル、故ニ即位ノ後、天下安靜五穀豐饒、在位三年、壽四十八ニシテ崩ス、又築山村ニ、武烈天皇ノ陵アリ、山岡磐築丘上陵ト云フ、城山ト字ス、天皇諱ハ、小泊瀨稚鷦鷯、仁賢天皇ノ太子ナリ、母ヲ春日大姫ト云フ、天皇

淫虐ニシテ、酒ヲ嗜ミ色ニ耽リ、殺戮厭クコトナク、天下怨ミ畔ク、在位八年ニシテ崩ス、○葛上、葛下、兩郡ノ間ニアリテ、地形東西ニ長キヲ忍海郡トス、全部二十村、忍海村ニ、角刺宮ノ址アリ、飯豊天皇此ノ宮ニアリテ、政ヲ行フト云フ、郡小ニシテ記スベキ者ナシ○國ノ東北ニアリテ、山城、伊勢ニ接スルヲ山邊郡トス、全郡一百四十八村、布留村ニ、石上神社アリ、官幣大社ノ一ニシテ、祭神ヲ布都御魂劍十種、瑞玉トス、例祭ハ、毎年九月十五日ナリ、社後ニ布留瀑アリ、一ニ桃花瀧ト云フ、白虹雲ヲ穿テ、寒聲月ヲ洗フ、真ニ佳境ナリ、新泉村ニモ、亦官幣大社アリ、

大和神社ト云フ、祭神ハ、倭大國魂神ハ于戈神、御年神ノ
三座ニシテ、例祭ハ、四月一日ナリ、此ノ郡白甜瓜ヲ産ス、
味極メテ美ナリ、○山邊、十市、兩郡ノ間ニアルヲ城上郡
トス、一ニ式、上ニ作ル、全部五十六村、此ノ郡ノ市場ハ、三
輪トシ、初瀬トシ、柳本トシ、芝村トス、三輪ハ、市坊一十一、
人口一千二百三十人、地ニ官幣大社ノ一ナル、大神神社
アリ、崇神天皇ノ七年、始メテ祭ル所ニシテ、祭神ハ、大物
主ナリ、例祭ハ、毎年四月九日、又三輪ノ神アリ、一説ニ此
ノ神、初ノテ酒ヲ製ス、故ニ酒ヲ三輪ト云ヒ、又三輪ニ杉
樹多シ、故ニ酒家杉葉ヲ束テ、招牌トナスト云ヘリ、其

ノ傍ニ檜原、弓月嶽、三輪崎、佐野渡等名勝ノ地アリ、皆古
人ノ和歌ニ入ル、初瀬ハ、人口一千四百九十人、地ニ大寺
アリ、長谷寺ト云フ、一ニ泊瀬ニ作ル、元正天皇養老五年
ノ創建ニシテ、僧徳道ノ開基ナリ、寺中ニ觀音ヲ安ス、男
女老幼四方ヨリ群賽ス、其ノ西、泊瀬小野ハ、雄略帝獵シ
テ、コモリクノ歌ヲ咏シ給ヒシ地ナリ、日本紀ニ、こもり
くの泊瀬の山ハ、
いまたらのあやまじくハ、あやま其ノ南、出雲村ノ泊瀬
列城、宮址ハ、武烈天皇ノ位ニ即キ給ヒシ所ナリ、泊瀬山、
度末世、紅葉里等ハ、皆和歌ノ名所ナリ、柳本ハ、市坊六、人
口二千二百五十八人アリ、舊織田氏ノ封タリ、其ノ家系

ハ羽前天童ノ織田氏ト一ニシテ、一萬石ヲ領ス、芝村ハ、人口一千二百三十三人アリ又織田氏ノ封タリ、柳本ノ織田氏ト一系ニシテ、亦一萬石ヲ領ス、此ノ郡ニモ亦帝陵多シ、崇神天皇ノ陵ハ、柳本ノ當別所村ニアリ、山邊道陵ト云フ、宇波奈利山ト字ス、天皇諱ハ、御間城入彦五十瓊殖、開化天皇ノ第六子ナリ、母ヲ伊香色謹命ト云フ、高市郡磯城ニ都シテ、瑞籬宮ニアリ、大和名所國會ニ磯城西ノ東志紀社ノ在位六十八年壽百十九ニシテ崩ス、景行天皇ノ陵ハ、澁谷村ニアリ、山邊道上陵ト云フ、向山ト字ス、天皇諱ハ、大足彦忍代別、垂仁天皇ノ第三子ナリ、母

ヲ日葉洲姬命ト云フ、日代宮ニアリ、後近江志賀郡ニ都ス、在位六十年ニシテ崩ス、舒明天皇ノ陵ハ、押坂村ニアリ、押坂内陵ト云フ、壇々山ト字ス、天皇諱ハ、田村敏達天皇ノ孫押坂彥主皇子ノ子ナリ、推古天皇崩シテ、蘇我蝦夷等迎ヘ立テ、都ヲ飛鳥岡本宮ニ遷ス、在位十三年ニシテ崩ス、○十市、廣瀨、両郡ノ間ナル小郡ヲ城下郡トス、全郡五十三村、黒田村ニ廬戸宮ノ址アリ、孝靈天皇此ニ都セシト云フ、宮古里、阿刀村、里等ハ、古人ノ歌ニ入ル、其ノ他著名ノ地ナシ、○國ノ東ニアリテ、伊賀、伊勢ニ接スルヲ宇陀郡トス、全郡一百三十九村、此ノ郡第一ノ市場ヲ

松山トス市街一十七人、人口一千九百一十七人、其ノ東北ニ城址アリ、松山城ト云フ、元和年間織田氏ヲレカ主タリ、又其ノ傍ニ秋山城ノ址アリ、天文年間秋山直國ノ築ク所ナリト云フ、又宇陀トス、人口一千五百二十四人アリ、其ノ東南萩原村ノ邊ハ、古昔宇陀野ト稱シ、遊獵ノ地タリ、三代實錄ニ貞觀二年十一月三日詔シテ源朝臣融ニ大和國宇陀野ヲ賜ヒシヨリ獵シ遊フ云々、總ヘテ此ノ郡勝地多シ、殊ニ寶生山寶生寺ハ、山間ニアリテ潺々タル溪流蒼々タル樹色、風流ノ士酒ヲ携ヘ來リ遊フ者多シ、又紫雲菴ハ、宇賀志村ノ溪間ニアリ、中將姫法如尼

ノ居リシ所ト云フ、中將姫ハ、横佩右大臣豊成ノ女ナリ、○國ノ西ニアリテ、河内ニ接スルヲ葛上郡トス、全郡六十二村、葛城山高ク西ニ聳エ、郡ノ中央、栢原村ニ樞原宮ノ舊址アリ、即神武天皇ノ都セル所ナリ、其ノ傍ナル本間村ニ、腋上嘸間岳アリ、一ニ國見山ト云フ、神武天皇此ノ岳ニ躋リ、一國ノ地勢ヲ見テ、内木綿ノ真途國ト雖蜻蛉ノ鬢帖スルカ如シト詔シテヨリ、秋津洲ノ名アリト云フ、櫛羅村ニ瀑布アリ、俱尸羅ト云フ、高五丈幅一間二尺、富田村ニ白鳥陵アリ、白鳥三陵ノ一ナリ、古琴彈原ト唱ヘシハ、即富田村ナリト云フ、此ノ郡ニモ亦帝陵多シ、

孝安天皇ノ陵ハ、玉手村ニアリ、玉手丘上陵ト云フ、宮山
ト字ス、天皇大日本足彦國押人ト號ス、孝昭天皇ノ第二
子ナリ、母ヲ世襲足姫ト云フ、葛上郡室ニ都ス、在位一百
二年ニシテ崩ス、孝昭天皇ノ陵ハ、三室村ニアリ、腋上博
多山上陵ト云フ、脇田波多々山ト字ス、天皇觀松彦香殖
稻ト號ス、懿德天皇ノ太子ナリ、母ヲ天豐津姫ト云フ、在
位八十三年ニシテ崩ス、此ノ郡人烟拂比ノ地ハ、御所町
ヲ最トス、市街四十人、人口三千五百零七人アリ、○葛上ノ
南ニシテ、河内紀伊ニ接スルヲ宇智郡トス、全郡六十三
村、繁華市場ヲ五條ト云フ、須惠、新町ノ二村ニ跨リテ、三

十七街、人口三千四百七十九人アリ、遠近ノ貨物皆萃マ
リ、四方ノ旅客皆到ル、徳川氏ノ時代、官此ノ地ニアリ、文
久癸亥中山忠光等兵ヲ舉ケテ、代官鈴木某ヲ殺シ、迹地
騷然タリ、尋テ平ク、此ノ郡城址多シ、上村城アリ、二見城
アリ、小島城アリ、小島城ハ、大和志ニ天文年中別所友興
コレニ居ル、二見城ハ、元龜年中松倉重政コレカ主タリ、
上村城ハ、牧野入道コレニ據レリト云フ、今其ノ墟榛莽
滿チテ、狐兔遊ヘリ、○國ノ中央ニシテ、十市吉野ニ隣レ
ルヲ高市郡トス、全郡一百二十一村、市場ハ、土佐、今井、八
木、岡等ナリ、土佐ハ、人口三千零々八人、市坊五街、農商聚

集ノ地タリ、其ノ東、高取山ノ半腹ニ、城堡アリ、山路羊腸トシテ天險ノ要地ナリ、南朝ノ人コレヲ築キ、北兵ヲ禦キシト云フ、徳川氏ノ時、植村氏コレニ居ル、植村氏ハ、世徳川氏ノ臣タリ、出羽守家政ノ時、此ニ封セラレ、二萬五千石ヲ領ス、今井ハ、人口二千三百三十一人、市坊七街アリ、八木ハ、其ノ東ニアリテ、人口一千八百零七人、市坊六街アリ、此ノ郡、皇居ノ址多シ、小墾田宮、曲峽宮、境原宮、豊明宮、厩坂宮、川原宮、遠飛鳥宮、八釣宮、藤原宮、淨御原宮、岡本宮、金槁宮等ナリ、又寺院多シ、菩提寺ハ、一ニ橘寺ト云フ、橘村ニアリ、推古天皇十四年、厩戸皇子ノ創建ナリ、

南法華寺ハ、壺坂村ニアリテ、僧道基ノ開基ナリ、龍蓋寺ハ、岡村ニアリテ、一ニ岡寺ト云フ、天智天皇二年、建ツル所ニシテ、僧義淵ノ開基ナリ、其ノ他、豊浦寺、久米寺等アリ、皆巨刹ナリ、久米寺ハ、久米村ニアリ、古昔此ノ地ニ久米ト云ヘル者アリ、能ク仙術ヲ學ビ、天空ヲ飛行スト、妄誕笑フベシ、事今昔物語ニ載セテ詳ナリ、又帝陵多シ、神武天皇ノ陵ハ、四條村ニアリ、畝傍山東北陵ト云フ、御陵又ハ塚山ト字ス、天皇諱ハ、狹野後神、日本磐余彦尊ト號ス、日向ヨリ起リテ、賊衆ヲ滅シ、都ヲ畝傍ニ建ツ、在位七十六年ニシテ崩ス、神武天皇即位元年辛酉ヨリ、今明治

十一年戊寅ニ至ルマテ二千五百三十八年ナリ、綏靖天皇ノ陵ハ、慈明寺村ノ東南ニアリ、桃花島田丘上陵ト云フ、主膳塚ト字ス、主膳綏靖國音相似タルヲ以テ訛レルナリ、天皇神渚川耳ト號ス、神武天皇ノ第三子ナリ、在位二十六年ニシテ崩ス、安寧天皇ノ陵ハ、吉田村ノ西北ニアリ、畝傍山西南御陰井上陵ト云フ、阿禰山ト字ス、亦安寧ノ音ニ似タルヲ以テナリ、天皇磯城津彦玉手看ト號ス、綏靖天皇ノ太子ナリ、在位三十八年ニシテ崩ス、懿徳天皇ノ陵ハ、池尻村ノ北ニアリ、畝傍山南磯沙溪上陵ト云フ、麻名子山ノ東谷ト字ス、天皇大日本考部友ト號ス、

安寧天皇ノ第二子ナリ、在位三十四年ニシテ崩ス、孝元天皇ノ陵ハ、石川村ノ東ニアリ、輕劍池島上陵ト云フ、天皇大日本根子彦國率ト號ス、孝靈天皇ノ子ナリ、在位五十年ニシテ崩ス、宣化天皇ノ陵ハ、鳥屋村ニアリ、身狹桃花鳥坂上陵ト云フ、美佐武佐伊山ト字ス、天皇諱ハ、高田安閑天皇ノ同母弟ナリ、在位四年ニシテ崩ス、欽明天皇ノ陵ハ、平田村ニアリ、檜隈坂合陵ト云フ、掖山ト字ス、天皇天國排開廣庭ト號ス、繼體天皇ノ子ナリ、在位三十二年ニシテ崩ス、皇極天皇ノ陵ハ、川原村ニアリ、越智ノ岡山陵ト稱ス、天皇諱ハ、寶敏達天皇ノ曾孫ニシテ、舒明天

皇ノ皇后ナリシカ、舒明天皇崩シテ位ニ即キ、皇極天皇ト稱ス、位ヲ輕皇子ニ讓ル、後重降ス、コレヲ齋明天皇ト稱ス、在位七年ニシテ崩ス、壽六十八、天武天皇ノ陵ハ、五條野村ニアリ、檜隈大内陵ト云フ、丸山ト字ス、天皇諱ハ、大海人、天智天皇ノ同母弟ナリ、在位十五年ニシテ崩ス、持統天皇ノ陵ハ、天武天皇ノ陵ト合葬ス、一ニ安古山陵ニ於テ火葬ストモ云ヘリ、天皇諱ハ、兔野、天智天皇ノ第二子ナリ、在位十年、位ヲ珂瑠皇子ニ讓ル、文武天皇ノ陵ハ、野口村ニアリ、檜前安古岡上陵ト云フ、王ノ基ト字ス、天皇ハ、即珂瑠皇子ナリ、天武天皇ノ孫タリ、在位十一年

ニシテ崩ス、○國ノ中央ニシテ、高市郡ノ東北ニアルヲ十市郡トス、繁華市場ハ、田原本、櫻井等ナリ、田原本ハ、市坊一十四、人口二千四百五十二人、櫻井モ亦市坊一十四アリテ、人口ハ、一千七百三十五人ナリ、郡ノ南多武峰ニ談山神社アリ、別格ノ官幣社ニシテ祭神ハ、藤原鎌足ナリ、此ノ郡ニモ亦皇居ノ址多シ、兩槻宮、玉穗宮、甕栗宮、稚櫻宮、百濟宮等ニシテ、倉橋村ニ、崇峻天皇ノ陵アリ、倉橋岡上陵ト云フ、天皇諱ハ、泊瀨部、欽明天皇ノ第十五子ナリ、菰我馬子權ヲ專ニシ、帝ヲ弑ス、在位五年、壽七十三、谷村、長門村ノ際ニ、用明天皇ノ陵アリ、磐余池上陵ト云フ、

天皇諱ハ、橘豊日欽明天皇ノ第四子ナリ、在位二年壽六十九、○國ノ南部ニアルヲ吉野郡トス、全郡三百二十五村、境地ノ大ナル、殆國ノ半ニ居ル、然レトモ郡中山岳多クシテ、耕種ノ地少シ、吉野山一ニ三芳野ト云フ、山甚高カラスト雖、古ヨリ有名ノ地タリ、延元年中後醍醐天皇京都ヲ逃レテ、此ノ山ニ幸シ、皇居ヲ建ツ、コレヲ南朝ト稱ス、五十六年ニシテ後龜山天皇北朝ト和ス、此ノ時楠正儀、和田正武等卒シテ、南朝ニハ、唯金剛山ノ一城アルノミ、畠山義深コレヲ攻ム、城兵僅ニ數十人、糧盡キテ十津川ニ匿ル、其ノ後楠氏、菊池氏、北畠氏等ノ餘孽、屢兵ヲ

興シ、足利氏ヲ滅サントスト雖、事遂ニ成ラス、王政維新ノ際、十津川黨ト稱シ、勤王ノ義ヲ唱ヘ、王家ニ功アルモノハ、蓋南朝遺臣ノ後ナリ、明治二年十津川ノ郷士ニ五千石ヲ下賜セラル、モ、亦故アルカナ、此ノ郡ノ市場ハ、吉野、下市、上市等ナリ、吉野ハ、市坊三街、人口一千四百一十八人、地ニ後醍醐天皇ノ陵アリ、天皇諱ハ、尊治、後字多天皇ノ第二子ナリ、賊魁高時亂ヲ作シ、闕ヲ侵ス、帝笠置山ニ逃レテ、賊ニ獲ラレ、乘輿遂ニ隱岐ニ移ル、正慶二年再京ニ入り、位ニ即ク、時ニ尊氏叛シ、兵威日ニ振フ、帝遂ニ吉野ニ幸シ、建武五年崩ス、下市ハ、市坊二十街、人口二

千九百四十六人其ノ南丹生村ニ丹生川上神社アリ祭
神ヲ意賀美神トス例祭ハ毎年六月一日ナリ金峰山上
ニ寺院アリ金峰山寺ト云ヒ實城寺ト云ヒ三寶院ト云
ヒ吉水院ト云フ源義經ノ此ノ處ニ潛ム吉水院ニ在リ
山僧群起シコレヲ捕ヘントス其ノ臣佐藤忠信代リテ
僧徒ヲ欺キ義經十津川ニ遁ルコトヲ得タリ後醍醐
天皇モ吉水院實城寺等ヲ皇居トセラレシト云フ○全
國ノ風俗ハ大抵山城ニ似タリ然レトモ芳野ノ人ハ峭
直ナリ人國記ニ芳野山中ノ人ハ邪僻ニ陷ラス奢美ヲ
好マスト國ノ北方奈良ノコトキハ其ノ人輕薄ニシテ

篤實ナル者甚少シト云フ

○山川

全國山岳多シ東ニハ大臺原國見高見ノ山脈伊賀伊勢
ニ連リ西ニハ葛城ニ上信貴ノ山脈河内紀伊ニ連ル國
ノ中央吉野郡ニハ金峰山高ク聳エ一ニ金御山ト云ヒ又國軸山ト云フ
仙ヶ嶽地藏嶽釋迦嶽七面山高原山等其ノ腰ヲ繞ル吉
野山ハ滿山皆櫻樹ニシテ春風ノ候櫻花開キテ爛熳タ
レハ遊人四方ヨリ來リ賞スル者多シ古ヨリ此ノ山ヲ
記スル者少カラスト雖其ノ状ヲ寫シテ能ク實ヲ得タ
ルハ具原篤信翁ノ巡覽記ナリ今コレヲ節畧シテ以テ

讀者ニ示サン

凡此山ハ六田の方の麓より奥院まで百餘町の間民
家なき所ハ、左右皆並樹の櫻あり、又左右の傍も、下の
谷も、左右のかけなる所の谷々も、皆櫻多し、稀は杉あ
り、二三月ハ、花の世界と云つへ、春ハ麓より先花咲
初め、漸く山は咲きのほりて、奥の院まで終る麓の花
盛りもきて、中の花盛りもなる、中の花盛りをきて、上
の花盛りも開く、其間大約三十日許あり、又晚櫻ハ、麓
よりも所々ありて、春の季奥の院の花盛りの比、盛も
開くあり、初櫻ハ、高き所もあるも、早く咲くあり、凡此

山の櫻ハ、皆一重あり、八重櫻ハ、山中及民家僧房に一
株もあり、寒風烈しき年、或ハ風雨久しく續けハ、花の
容色あり、故は年より好否あり、山僧曰く、此四
十年以前ハ、今よりも此山は櫻多し、山僧又曰く、凡此
山の花、上中下一時ハ開かずと雖、大約立春より六十
五日もあたる頃と盛りの最中とを、但寒温よりして
遅速あり、吉野町より少く東の方の山のさし出たる
所あり、櫻の盛り此あたりより、左の谷の内前より向
ひ、左より右、凡方二十町許、只一目も見えて、皆花の林
あり、面白き事だとして言をんやとあり、雪の曙ハ、只

ひた白よて、日いたためあり、此處花の處々咲き綻ひたる粧、浮世の外物よやと、恠まる、凡櫻ハ、雲透透見えたるハ、おやあ、山のかたほとり、又谷底よありて、むかひよ透間なき所よあると、見るくよきあり、此處ハ四邊の山の傍、谷の底あると、高き處より望み見て、假令ハ大なる盆おとの内を見る様あり、此の如き佳境ハ、大和ハいふよ及ハに、恐くハ見ぬ唐よもあらしと思ふ、其外のあし國ハ、更ふり、子守より上の花ハ遅し、此山よて櫻をきる事を禁し、櫻木と薪よせに故よ、樵夫も櫻を賣らば、も薪の内よ櫻ありハ、里人こ

れを捨つ、こき偏り里人の櫻を愛するよもあらば、藏王権現の神木よて、惜し給ふと言ひ傳へて、神の崇と畏る、故あり、

篤信翁ノ記スル所此ノ如シ、凡櫻花ニハ、數品アリテ、芳野ノ櫻ハ、單瓣ニシテ、色白ク紅ヲ帶ヒ、花ヲ着クルコト密ナリト云ヘリ、松岡ニ註ナリ著ノ吉野山ノ外ハ、其ノ山峰ニ、春日山、三笠山、龍田山、多武峰等アリテ、古人ノ歌集ニ散見セル佳境ナリト雖、皆記スヘキ者ナシ、川ハ國ノ中央ヲ貫キ、東ヨリ流ル、ヲ吉野川トス、其ノ源ハ大臺原山ヨリ出テ、五條ノ南ヲ過キ、紀伊ニ入り、紀川ト稱

シ、海ニ注ク、山間ヲ環流シテ、北ヨリ流ル、ヲ十津川ト
ス、其ノ源ハ吉野山ヨリ出テ、諸川ヲ併セ、紀伊ニ入ル、
國ノ中央ノ諸川ヲ併セ西ニ流ル、ヲ初瀬川トス、其ノ
源ヲ城上郡ノ初瀬ノ傍ヨリ發シ、奈良川、相川、廣瀬川、龍
田川ト會シ、河内ニ入り、大和川トナル、國ノ東境ノ諸水
ヲ集メ、東流スルモノヲ黒田川トス、其ノ源ヲ十市郡ヨ
リ發シ、伊賀ニ入りテ、名張川ト合ス、○吉野郡ニ銅山ア
リ、天川郷ノ和田村、天和山、宗川郷ノ日裏村、迫村入會、戶
棚谷十二村郷ノ今井村、北又山ナリ、明治五年三所・出
額、合計五萬三千六百二十五貫四百四十目、温泉アリ、四

所、皆吉野郡ニアリ、東泉寺ト云フ、武藏村ニアリテ、泉質
ハ、硫化水素、及硫酸、鹽化ヲ混ス、柳本ト云フ、桑畑村ニア
リテ、泉質ハ、鹽化、硫酸、硫化鉄、硫化水素ヲ混ス、出谷村ハ、
同上ノ泉質ニシテ、入之波村ハ、鹽化、炭酸、硫酸ヲ混ス、○
瀑布ハ、山邊郡ニハ、布留瀑アリ、山邊郡ニ詳ニス葛上郡ニハ、俱
尸羅瀑布アリ、葛上郡ニ詳ニス而シテ吉野郡最多シ、中之瀑、和
泉瀑、白瀑、三重瀑、三公瀑、蜻蛉瀑、龍門瀑、阿古瀑、瀧ノ脇、風
屋瀑、高瀑、清納瀑等ナリ、其ノ最大ナルハ、中之瀑ニシテ、
其ノ高九百五十丈、幅十五間アリ、牧場ハ、添上郡ノ嫩草
山ニシテ、牛ヲ牧スルコト九七十頭、吉野郡ノ水吞原及

高原ニシテ皆牛ヲ牧ス、又葛下郡ニ池アリ、旗尾池ト云
フ、周匝凡一里、

○産物

産物ハ、紙、漆、漉紙、墨、素麵、葛粉、奈良人形、團扇、煙草ノ類、又
漆器、御所柿、干瓢、香魚等ニシテ、芳野郡ヨリハ、多ク材木
ヲ産ス、婦女コレヲ頭ニ戴キ運送ス、

